

令和 3 年 9 月 30 日

協会けんぽ(全国健康保険協会)とは、主に中小企業の従業員とその家族が加入する健康保険です。平成 20 年に政府管掌健康保険を引き継いで設立されました。全国で約 4,030 万人、うち長野支部では約 66 万人が加入しています。

**【お問い合わせ先】**  
 〒380-8583  
 長野市南長野西後町 1597-1  
 長野朝日八十二ビル 8 階  
 全国健康保険協会長野支部  
 企画総務グループ 梅本(うめもと)  
 TEL:026-238-1251 FAX:026-238-1257

**働き盛り世代の血糖値に黄信号！**  
**～令和元年度の健診結果分析から全国平均を上回る血糖リスク判明～**

全国健康保険協会において令和元年度の健診結果を分析した結果、長野支部加入者で血糖値が高い人の割合が全国平均に比べて多い傾向にあることがわかりました。

この結果を受けて、全国健康保険協会長野支部においてさらに詳細な分析を進めた結果、県内の業態別・年代別の特徴が判明しました。

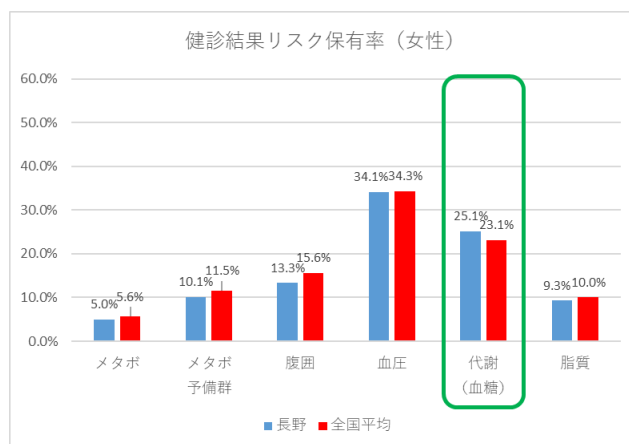
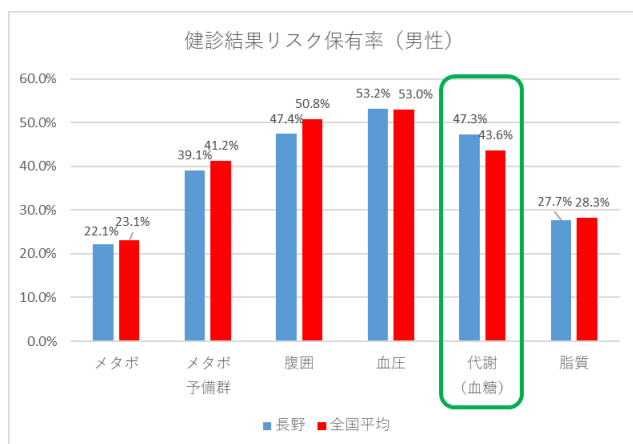
長野県では高血圧に着目した「減塩運動」に長らく取り組んでいますが、血圧だけでなく血糖値についても注意していく必要があります。

1. 長野支部と全国の血糖リスク(※)比較

令和元年度の健診結果から各項目のリスク保有率をみると、男女ともに血糖リスク保有率が全国平均を上回っていることがわかります。(図1)

その他の項目では、血圧リスクがほぼ全国平均に並ぶほかはそれぞれ下回っています。

(図1：加入者40～74歳の健診結果より)

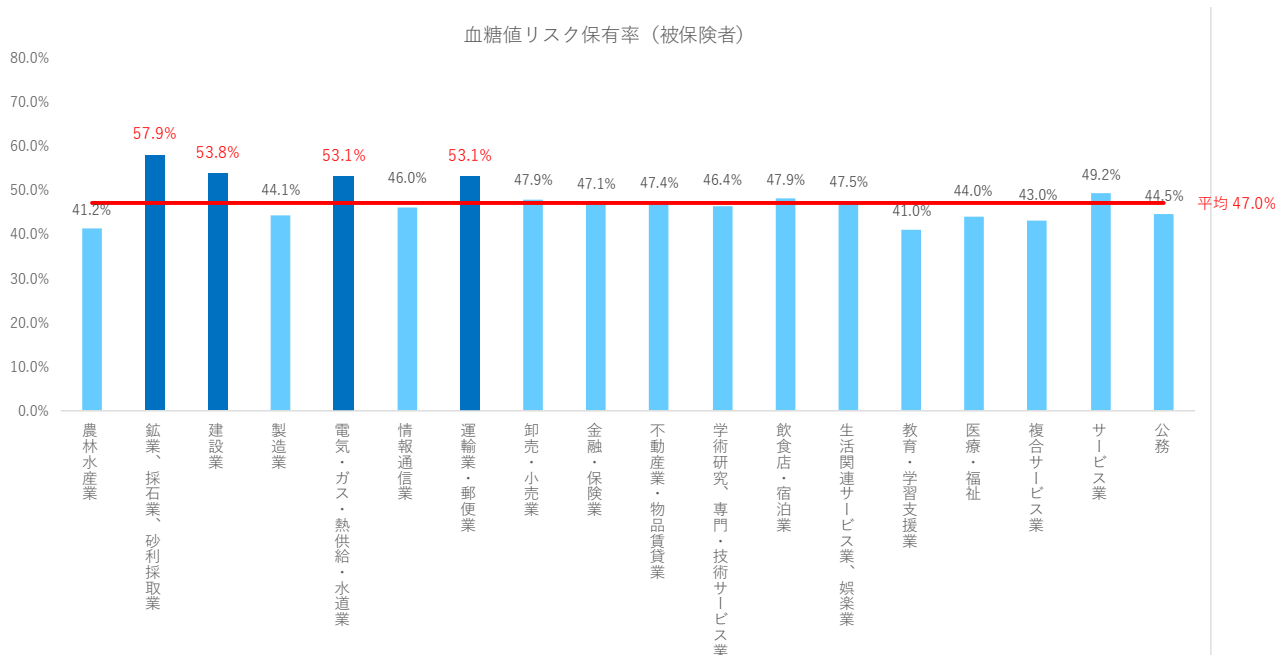


(※) 空腹時血糖 100mg/dl 以上または HbA1c 5.6%以上を血糖リスクとしています。

## 2. 業態別の血糖リスク比較

事業所に勤務する加入者（被保険者）の勤務先業態別の血糖リスク保有率では、長野支部の平均が47.0%でした。このうち「鉱業 採石業 砂利採取業」「建設業」「電気・ガス・熱供給・水道業」「運輸業・郵便業」の4業態では50%を超えています。業態別の特徴がリスク保有率に影響を及ぼしている可能性があります。（図2）

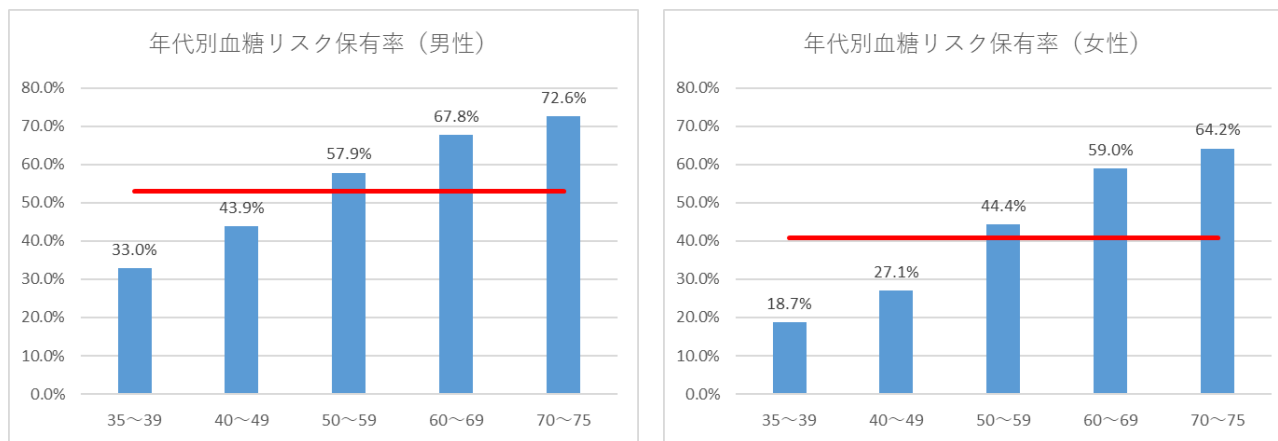
（図2：被保険者35～74歳の健診結果より）



## 3. 年代別の血糖リスク比較

加入者の年代別では、年齢を重ねていくごとに血糖リスク保有率が高まっていくことがわかります。男女ともに40歳代から50歳代にかけて上昇幅のピークを迎えており、男性は30歳代から40歳代、女性は50歳代から60歳代の時期がその次の上昇幅となっています。若い頃からの生活習慣がその先の血糖リスクに影響を及ぼしていると考えられます。（図3）

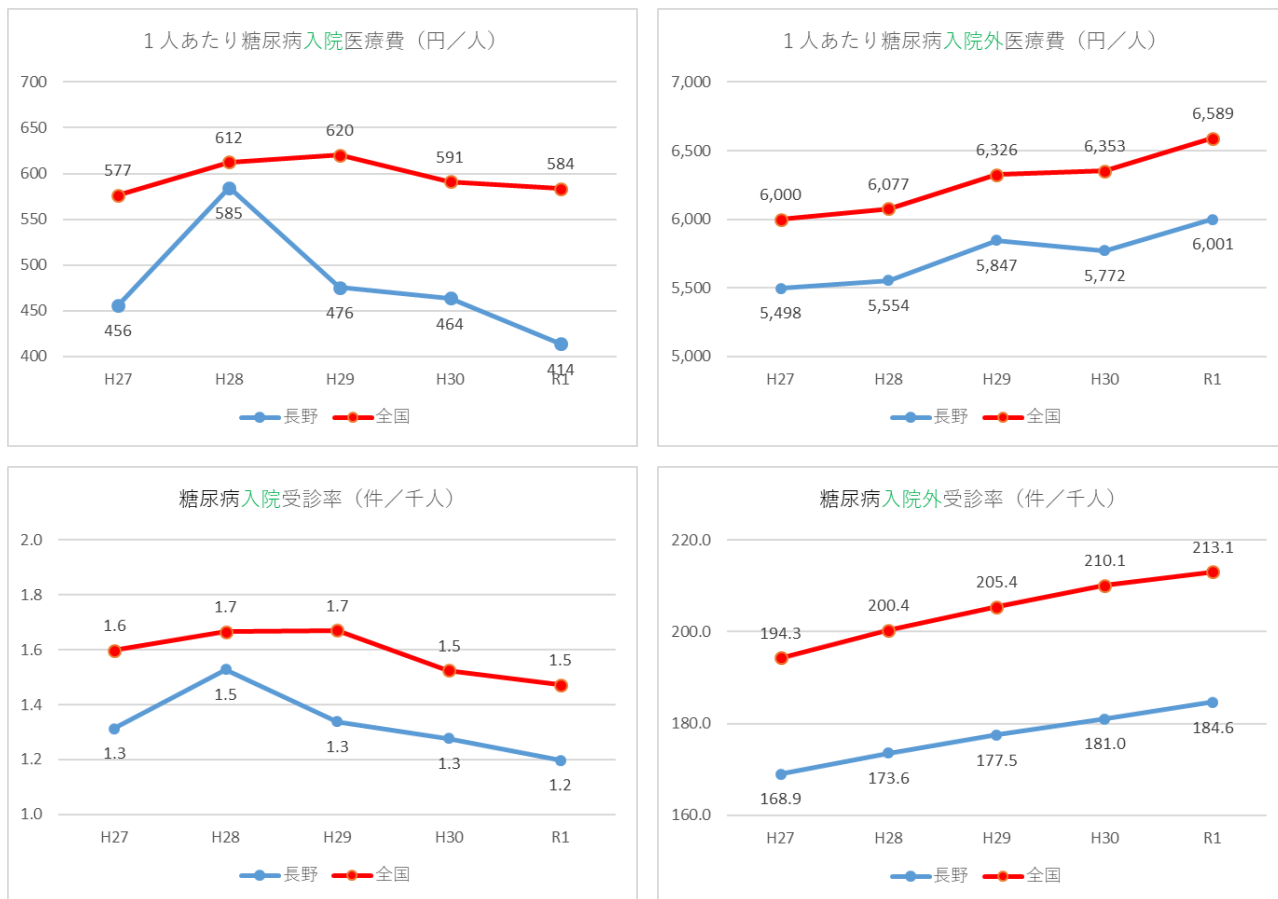
（図3：被保険者35～74歳の健診結果より）



4. 糖尿病にかかる医療費の変化

医療機関への受診状況を見るため、令和元年度に糖尿病で医療機関を受診した加入者の5年分のレセプトを分析しました。1人あたり医療費、受診率（千人あたり）ともに、入院・入院外の双方で全国平均を下回っています。入院にかかる1人あたり医療費、受診率は減少傾向であるものの、入院外にかかる1人あたり医療費は増加傾向にあります。（図4）

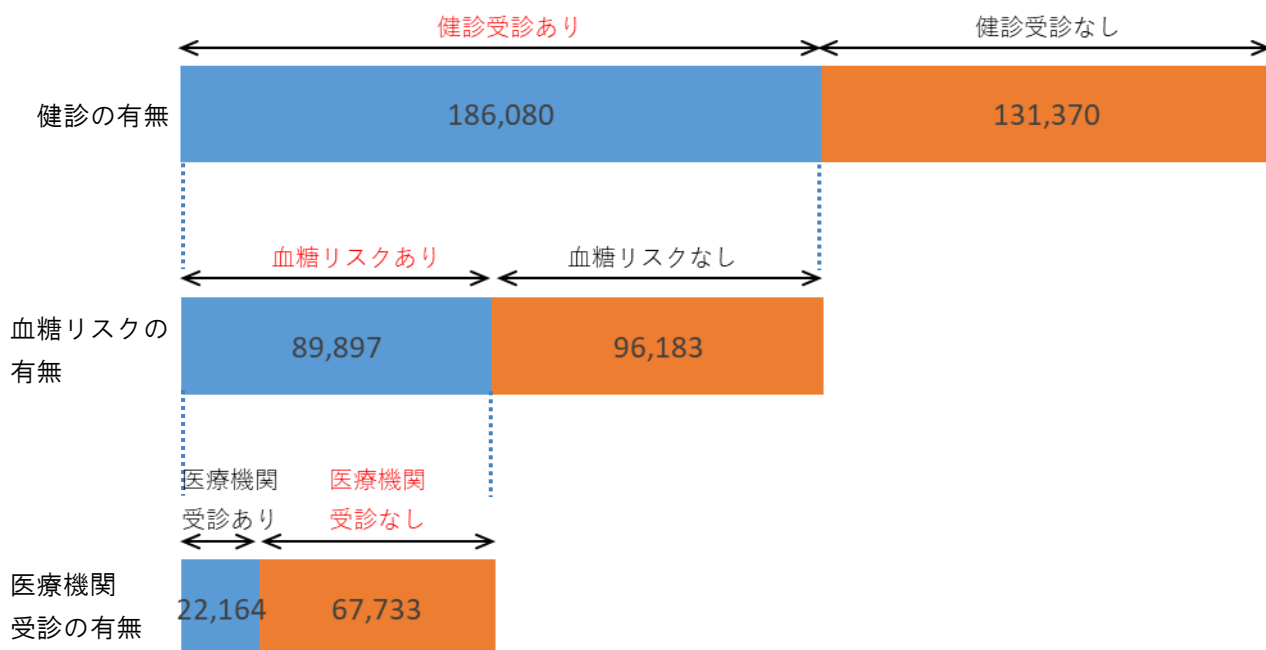
（図4：加入者0～74歳のレセプト情報より）



5. 健診受診者と医療機関受診者の相関関係

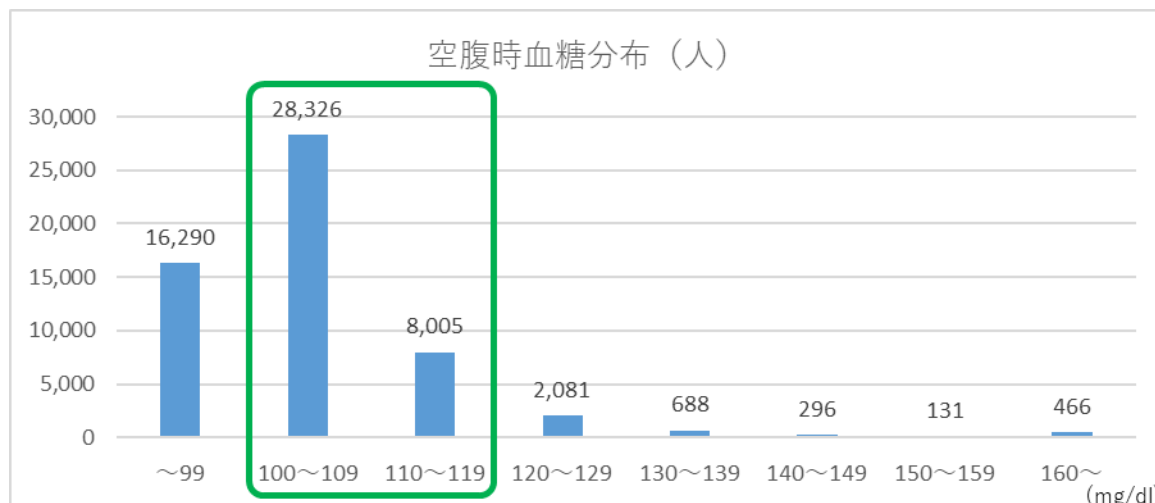
健診結果により血糖リスクを有するとされた方が適切に治療を受けているかを調べるため、長野支部加入者の健診受診状況と医療機関受診状況の相関関係を分析しました。令和元年度に健診を受けて血糖リスクを有するとされた方は約9万人ですが、そのうち約75%の方は医療機関への受診をしていない状況です。1人あたり医療費と受診率が全国平均を下回っていますが、医療機関を受診し治療を受けなければならない方が受けていないことによる可能性があります。(図5-1)

(図5-1：加入者40～69歳の健診結果・レセプト情報より)



血糖リスクを有していながらも医療機関を受診していない方(67,733人)のうち、空腹時血糖の値により血糖リスクを有するとされた方(56,283人)の血糖値の分布をみると、約36,000人が100～119mg/dlの範囲に該当しています。生活習慣の改善により血糖リスクを減らすことの重要性がわかります。(図5-2)なお、当協会では空腹時血糖126mg/dl以上の方に医療機関への受診をお勧めしています。

(図5-2：加入者40～69歳の健診結果・レセプト情報より))



---

全国健康保険協会長野支部では、保健師や管理栄養士が事業所に訪問して健診結果に基づいた生活習慣の見直しをアドバイスする特定保健指導を実施しているほか、健診結果により血圧と血糖値のリスクを有し医療機関への受診が確認できない方へ個別にダイレクトメールをお送りして受診をお勧めしています。

血糖値が高いまま治療を受けずに放置すると、糖尿病の発症や人工透析が必要となるなどQOL（生活の質）の低下につながりかねません。適切な時期に適切な治療を受けることで、将来の大きな医療費の支出を避けることができます。今後も加入者の皆様の健康づくりに役立つ情報分析をすすめてまいります。